

六経弁証と六病位の異同及び臨床応用

高橋楊子・上海中医薬大学附属日本校

六経弁証は、外感熱病の病変過程に現れる各症候及び病気の性質を三陽病証（太陽・陽明・少陽）と三陰病証（太陰・少陰・厥陰）という六病証に概括し、治療の根拠となる弁証方法である。

一、六経とは

三陽経→太陽経・陽明経・少陽経

三陰経→太陰経・少陰経・厥陰経

二、六経病証の相違及び臓腑・八綱の関係

陰陽	六経病	相関臓腑	表裏関係	寒熱関係	邪正関係	傾向
三陽病	太陽病	膀胱・(小腸)	表	悪寒発熱	邪気盛 (抵抗力強)	実証熱証が多い
	陽明病	胃・大腸	裏	但熱不寒		
	少陽病	胆・(三焦)	半表半里	寒熱往来		
三陰病	太陰病	脾・(肺)	裏	畏寒	正気虚 (抵抗力弱)	虚証寒証が多い
	少陰病	腎・心	裏	畏寒・(発熱)		
	厥陰病	肝・心包	裏	寒熱錯雑		

三、六経病の相互関係

【合病】2経か3経の病が同時にあらわれる。例、太陽陽明合病、三陽合病

【併病】1経の病が治っていないうちに、他経の病があらわれる。例、太陽陽明併病

【伝経】1経の病から次の経に伝変する。伝経するかどうかは、邪正闘争と治療が正しいかどうかなどと関係する。伝経の条件—邪正闘争の結果、誤治（誤汗・誤下など）

正盛邪弱→病が伝経せずその経で治る。

邪盛正盛→主に陽経に、邪盛正弱→主に三陰経に伝経する。

伝経の種類

【循経伝】六経の順序に沿って転変する。例、太陽→陽明→少陽→太陰→少陰→厥陰

【越経伝】1経か2経を越して次の経に転変する。例、太陽病から直に太陰病に伝変。

【表裏伝】表裏関係の経の転変。例、太陽から少陰へ、陽明から太陰へ伝変。

【直中】→邪気が直接に陰経を侵入し初期に三陰経の病があらわれる。例、直中太陰
その他、伝経の過程に中間証もある。例、桂枝麻黄各半湯証、桂枝二麻黄一湯証、柴胡桂枝湯、桂枝加芍薬湯証など。

四、六経弁証と臨床応用

(一) 太陽病

太陽は表を主る。太陽病は外感熱病の初期によく見られる病証。

太陽病		共通症状	病因病機と主症	治則	代表処方
太陽 經 証	太陽中風証 別名：中風表虚証 風寒表虚証	惡風寒 發熱 (頭痛) 脈浮 苔薄白潤	風邪襲表・營衛不和（惡風發熱・汗出・頭痛・脈浮緩）	祛風解肌 調和營衛	桂枝湯
	太陽傷寒証 別名：傷寒表実証 風寒表実証		風寒襲表（惡寒發熱・無汗・頭痛項強・關節痛・脈浮緊）	辛温散寒 發汗解表	麻黄湯
太陽 腑 証	蓄水証 (太陽經腑同病)		外有表証・内停水湿（表証＋水入即吐・下痢・水腫・小水不利）	利水滲湿 温陽化氣	五苓散
	蓄血証 (表邪内伝・熱結下焦血分)		血熱搏結下焦（少腹急結・小便自利・譫語煩渴・身熱夜盛・狂躁状態）	破血下瘀	桃核承氣湯・抵当湯・抵当丸

【原文】

【太陽病総綱】太陽之為病、脈浮、頭項強痛、而惡寒

【太陽中風証】

太陽病、發熱、汗出、惡風、脈緩者、名為中風

太陽中風、陽浮而陰弱、陽浮者熱自發、陰弱者汗自出。藹藹惡寒、淅淅惡風、翕翕發熱、鼻鳴乾嘔者、桂枝湯主之

【太陽傷寒証】

太陽病、或已發熱、或未發熱、必惡寒、体痛、嘔逆、脈陰陽俱緊者、名為傷寒

太陽病、頭痛、發熱、身疼、腰痛、骨筋疼痛、惡風、無汗而喘者、麻黄湯主之

【太陽蓄水証】

太陽病、發汗後、大汗出、胃中乾、煩燥不得眠、欲得飲水者、少々与飲之、令胃氣和即癒。若脈浮、小便不利、微熱消渴者、五苓散主之

中風發熱、六七日不解而煩、有表裏証、渴欲飲水、水入則吐者、名曰水逆。五苓散主之。

【太陽蓄血証】

太陽病不解、熱結膀胱、其人如狂、血自下、下者癒。其外不解者、尚未可攻、当先解其外。外解已、但少腹急結者、乃可攻之、宜桃核承氣湯

太陽病、六七日表証仍在、脈微而沈、反不結胸、其人發狂者、以熱在下焦、少腹当鞭滿、小便自利者、下血乃癒。所以然者、以太陽随經、瘀熱在裏故也。抵当湯主之。

太陽病、項背強几几、無汗、惡風、葛根湯主之

（二）陽明病

陽明は裏を主る。陽明病は外感熱病極期・裏実熱証によく見られる病証

陽明病	症状	病因病機	治則	代表処方	特徴
陽明 経証	壮熱、大汗、大渴、面赤、 心煩、苔黄燥、脈洪大	裏熱亢盛 津液損傷	清熱生津	白虎湯・白 虎加人參湯	熱盛（無燥 屎内結）
陽明 腑証	日晡潮熱、便秘、腹脹腹 痛、拒按、譫語、苔黄燥、 芒刺、脈沈実	裏熱燥屎互 結	清熱瀉腑 通便	大承氣湯 承氣湯類	熱盛＋燥 屎内結

原文

【陽明病総綱】 陽明之為病、胃家実

【陽明経証】

傷寒、脈浮滑、此表有熱、裏有寒（一説：表裏有熱）、白虎湯主之。

傷寒、脈浮、發熱、無汗、其表不解、不可与白虎湯。渴欲飲水、無表証者、白虎加人參湯主之

三陽合病、腹滿、身重、難以転側、口不仁、面垢、（譫語）、遺尿。發汗則譫語、下之、則額上生汗、手足逆冷、若自汗出者、白虎湯主之

【陽明腑証】

陽明病、脈遲、雖汗出不惡寒者、其身必重、短氣、腹滿而喘、有潮熱者、此外欲解、可攻裏也。手足濇然汗出者、此大便已鞏也、大承氣湯主之。

陽明病、潮熱、大便微鞏者、可与大承氣湯

（三）少陽病

少陽は半表半里を主る。少陽病は外感熱病が表から裏へ進んで半表半里の過程によく見られる病証である

少陽証 (半表半里)	症状	病因病機	治則	代表処方
	寒熱往来、胸脇苦満、 不欲飲食、心煩喜嘔、 口苦咽乾、目眩、苔 白か薄黄、脈弦	邪正相争 表裏の間 枢機不利	和解少陽	小柴胡湯 兼表証—柴胡桂枝湯 兼裏証—大柴胡湯など の柴胡湯類

原文

【少陽病総綱】 少陽之為病、口苦、咽乾、目眩也

傷寒 5. 6 日中風、往来寒熱、胸脇苦満、嘔嘔不欲飲食、心煩喜嘔、或胸中煩而不嘔、或渴、或腹中痛、或脇下痞鞏、或心下悸、小便不利、或不渴、身有微熱、或咳者、小柴胡湯主之

傷寒中風、有柴胡証、但見一証便是、不必悉具

傷寒 6, 7 日日、發熱、微惡寒、支節煩疼、微嘔、心下支結、外証未去者、柴胡（加）桂枝湯主之

傷寒十余日、熱結在裏、復往来寒熱者、与大柴胡湯

太陽病、過經十余日、反二、三下之、後四、五日、柴胡証仍在者、先与小柴胡湯。嘔不止、心下急、鬱鬱微煩者、為未解也、与大柴胡湯、下之則愈

傷寒五六日、已發汗而復下之、胸脇満、微結、小便不利、渴而不嘔、但頭汗出、往来寒熱、心煩者、此為

未解也，柴胡桂枝乾姜湯主之

（四）太陰病

太陰は裏を主る。太陰病は裏の脾陽虚寒によくみられる病証である。

太陰証 (脾陽虚寒証)	症状	病因病機	治則	代表方剤
	食欲減退、下痢、嘔吐、口不渴、腹痛腹満、喜温喜按、舌淡苔白膩、脈沈緩弱	脾陽虚弱 寒湿内生	温中散寒	理中湯（人参湯）

原文

太陰之為病、腹滿而吐、食不下、自利益甚、時腹自痛、若下之、必胸下結鞭。

自利不渴者、属太陰、以其蔵有寒故也、当温之、宜服四逆輩

大病差後、喜唾、久不了了、胸上有寒、当以丸薬温之、宜理中丸

（五）少陰病

少陰は裏を主る。少陰病は心・腎機能衰退による裏虚証であり、さらに心腎陽気衰弱による少陰寒化証と、心腎陰虚陽亢による少陰熱化証に分ける。

少陰病	症状	病因病機	治則	代表方剤
少陰寒化証 (心腎陽虚内寒)	畏寒、四肢厥冷、元気ない、眠りたがる、下痢清穀、嘔吐、食べられない、口不渴 或いは口渴喜熱飲、脈微欲絶	心腎陽虚 陰寒内盛	回陽救逆	四逆湯
少陰熱化証 (心腎陰虚陽亢)	心煩、不眠、口や咽喉が干燥、舌紅絳、少苔、脈細数	腎陰虚弱 心火亢盛 陰虚陽亢	滋陰降火	黄連阿膠湯

原文

【少陰寒化証】

少陰之為病、脈微細、但欲寐

少陰病、脈沈者、急温之、宜四逆湯

【少陰熱化証】

少陰病、得之二三日以上、心中煩、不得臥、黄連阿膠湯主之

（六）厥陰病

厥陰は裏を主る。厥陰病は外感熱病の後期にみられる寒熱錯雑の病証である。

厥陰証 (上熱下寒・胃熱腸寒)	症状	病因病機	治則	代表方剤
	消渴（激しい口渴）、気上衝心、心中疼熱、空腹感があるが、食欲がない、四肢厥冷、下痢、嘔吐、或いは回虫を吐く	陰陽失調 寒熱錯雑	調和寒熱 和胃安蛔	烏梅丸

原文

厥陰之為病、消渴、氣上衝心、心中疼熱、飲而不欲食、食則吐蛔、下之、利不止 “

傷寒脈微而厥、至七八日膚冷、其人躁、無暫安時者、此為藏厥、非蛔厥也。蛔厥者、其人当吐蛔、今病者靜、而復時煩者、此為藏寒。蛔上入其膈、故煩、須臾復止、得食而嘔、又煩者、蛔聞食臭出、其人常自吐蛔。蛔厥者、烏梅丸主之。又主久利

まとめ

六経病証は臟腑・経絡及び関係部位の病理変化を反映するものである。三陽病証は主に実証・熱証・六腑の病理変化を示し、三陰病証は主に虚証・寒証・五臓の病理変化を示す。六経弁証は外感熱病だけでなく、内傷雑病の治療にもよく使われる弁証方法である。

【症例検討】体温調節がうまくできない

患者：某さん、女性、75 歳

初診：2014 年 10 月

主訴：冷えてぞくぞくしたり、ときに熱くて汗をかいたりする。

経過：2002 年から 10 年間、自宅でご主人の看病をしていた。ご主人の死亡後の 2012 年 1 月頃から、からだがいとも風に当たるように冷えてぞくぞくしている。多めに衣類を着ていると、少し動いたらと熱くなり汗が出てまた寒さを感じてしまう。体温調節がうまくできず悩んでいる。

望診：小太り、顔色は白っぽい。頬などの局所に紅潮がみられる。

問診：冷たい風が当たったようにいともぞくぞくしている。基礎体温が 34～35℃ぐらい（腋下測定）。他人より多めに衣類を着ているが、少し動くとき汗がじわっと出て、またも寒さを感じる。かぜを引きやすい。疲れは感じないがときには動悸がしたりフワフワしたりする。

食欲普通、大便 1～2 回/日、尿 5～6 回/日。膝と足は重い、睡眠良好。

舌診 淡舌、歯痕があり、薄白苔。

切診 皮膚が少し湿っぽい。沈細弱脈。

（身長/体重：146 c m/55. 6K g。コレステロール値が高い）

弁証：

治則：

処方：